

# 情報レポート 平成20年4月分

## I. 概況

4月のD I値4指標（売上、収益、資金繰り、景況）について、前年同月比で、景況に悪化が見られた（前回△50→今回△56：6ポイント減少）。ここ2年の推移の中で最低の水準となっている。製造業で、売上が好調でありながらも収益が悪化している傾向が見られ、原材料値上げの影響が現れてきている。

前月比は、製造業、非製造業とも、D I値4指標はいずれも悪化した。期末特有の需要増から4月に入り状況が一転したためだが、例年の傾向である。

## II. 業種別状況等

### ① 原材料価格の値上げについて

原油価格の高騰は続き、あらゆる業種にわたって原材料の価格の値上げが相次いでおり、販売価格の引き上げが進まないため収益は悪化し、先行きの不安が拡大している。

### ② 食料品製造業

中国からの加工食品の輸入ストップは徐々に解決しつつあり、材料についても順次輸入されているが、まだ輸入量が少ないため、出荷量・売上高の回復の見通しが立たない。

### ③ 輸送機器製造業

前年同月比36%増の記録的な売上の伸びを見せるなど、親会社の好調に牽引され売上が伸びず組合があったが、原材料価格の高騰に収益が圧迫され、親会社との価格交渉が大きな課題となっている。

### ④ 農畜産物卸売業

米の需要が回復傾向で売れ行きは上昇しているが、原油高によるコスト増加に対応した販売価格の引き上げに応じてもらえない状況。

### ⑤ 建築材料卸売業・建設業

建築確認申請手続きの改正等により、住宅着工件数の減少が明らかになるなど建築業界全体が停滞したままである。

### ⑥ 小売業

売上、客人数ともに減少、悪化した。ゴールデンウィークを控えて出費を抑えるためか例年4月は苦戦するが、今年は落ち込みが顕著に思われる。

⑦ 旅行業

若年層と高齢層の動きが悪く。4月は主になる個人旅行が典型的な“安・近・短”で、取扱人数は増えても売上は減少という旅行社にとって厳しい状況。大きな改善の見通しはない。

⑧ 運輸業

3月末の暫定税率期限切れに伴い、4月初めには安くなった軽油に注文が殺到し、月末には5月からの暫定税率復活に備え駆け込み需要が殺到し、メーカーとの折衝、オーダーのやり繰りに苦勞し、大混乱の月であった。

景気動向（前年同月比）の推移（DI図）

